

## 種鶏場と孵化場での効果的なバイオセキュリティ(2)

### バイオセキュリティのチェックリスト

- 適切に実行されたバイオセキュリティ対策は、病原体の伝播を抑制します。
- 消毒と衛生管理、ワクチン接種、戦略的治療を組み合わせると、病原体数を非感染レベルまで減少させることができます。
- 異なる病原体は、異なる伝播様式であることを肝に銘じ、それぞれに適した対策を立てます。
- 種鶏場の場所、デザイン、鶏の密度、地理的条件は大変重要です。新しく種鶏場を計画する場合は、効果的なバイオセキュリティプログラムを計画できるチャンスです。しかし、バイオセキュリティの実行は理論構築よりもむしろ実用性に注力すべきです。
- 全ての種鶏場で人、飼料、資材、設備を運ぶ輸送手段が必要ですが、可能な限り最小限にしましょう。
- 病原体の伝播を抑えるために、防護服を使用しましょう。
- 種鶏場でのバイオセキュリティの失宜は、コマーシャル農場まで広がるため、種鶏場鶏舎でのバイオセキュリティを最優先とします。
- 孵化場の状況も同様に優先します。
- 必要な車両のみを種鶏場に出入りできるようにし、車両は必ず到着時に消毒します。
- 洗浄消毒は、種鶏オールアウト時に全ての種鶏場で計画的に行い、定期的に監視します。
- 効果的な害獣対策を行います。
- 全てのウイルス、細菌に効果が証明された広域スペクトラムの消毒薬のみを使用します。使用に際しては製造元の推奨希釈倍率と指示に従って使用します。

### 出荷後(アウト後)消毒

新しい種鶏を導入する前に病原体の持ち込みを避けるため、出荷後消毒を確実にすることが不可欠です。これは5つの段階に分かれます。

- ・Stage1: 器具機材の搬出と清掃後乾燥
- ・Stage2: 飲水装置
- ・Stage3: 鶏舎と設備の洗浄、消毒
- ・Stage4: 消毒
- ・Stage5: セットアップ

### ●種鶏の供給元

出荷後消毒レベルを上げるには、信頼できる供給先からの疾病フリーの新しい種鶏の導入が重要です。そうでなければ全ての洗浄消毒作業が無駄になります。

### 継続的なバイオセキュリティ

高いレベルの出荷後消毒をやり遂げ、農場内に健康な鶏を確保するためには、全ての育成、生産ステージを通じてこの状態を維持しなければなりません。

感染の侵入、種鶏場内での感染や交差感染を避けるためには様々な場面があります。異なった生産段階でおきる種々の疾病に対し、継続的なバイオセキュリティがさまざまな役割を果たすこととなります。

以下の記述は、疾病の拡大、発生の抑制、疾病の侵入を避けるのに一助となるでしょう。

### 種鶏場でのセキュリティ

種鶏場への疾病感染の侵入、鶏舎間の伝播を避けるため、次の予防措置を遵守しなければなりません:

### ●踏み込み槽

全従業員が、種鶏場・鶏舎へ入る際、踏み込み槽を使用すべきです。

### ●車両用薬浴槽/車両用スプレー/移動可能な設備

訪問車両はすべて、タイヤ薬浴槽、車両用消毒スプレーを行ってから種鶏場内に入るべきです。消毒液を定期的に交換し、希釈や汚染を防ぎましょう。持ち込む機材はすべて洗浄消毒します。そして、使用後、完全に洗い流します。

### ●手洗い

汚れた、未洗浄の手が疾病感染を持ち込む可能性があります。全ての訪問者が種鶏場に入る前に手洗いを行います。全従業員が作業前に手を洗い、休憩時間終了後、また作業内容が変わる前にも手を洗うべきです。

### ●訪問者

用のない訪問者は入れません。必要な訪問者には防護服を着せます。清掃要員、駆除員、技師には特別な注意を払います。彼らはしばしば感染を拡大させる原因となります。

### ●水の消毒

飲用水は感染を拡大させる感染源となりえます。配水タンクとパイプラインを定期的に清掃し、汚染を防ぐ消毒剤で消毒しておきましょう。

## ●空気環境の消毒

鶏体に消毒剤を噴霧散霧することは、呼吸器疾病や他の疾病が蔓延してしまった時に、交差感染および二次感染を減少させる効果があります。このことは、IBや、七面鳥ライノウイルス感染症に感染後の二次細菌感染(例:大腸菌敗血症)を防ぐことでとくに価値があります。

## ●敷料処理

アスペルギルス症の問題や他の敷料由来汚染は、気候の変動によって起こります。10㎡に1Lの割合の消毒剤噴霧による敷料の消毒は、アスペルギルス症の発生率低減、敷料汚染の減少に効果があります。

## ●げっ歯類のコントロール

ラットやマウスは、サルモネラ感染症を含む、種鶏場での疾病の伝播をもたらします。こぼれ出た飼料は、害獣から鶏舎を守るため直ちに処理します。ラットやマウスをコントロールするために有効な殺鼠剤、撃退プログラムを用います。

## 卵の管理

種鶏場で重要な生産物、孵化用卵は、集卵から孵化場へ輸送するまで注意深く取り扱わなければなりません。

卵を手作業で集卵する場所では、従業員は、完璧な手洗いをした後に作業を始めなければなりません。

卵の保管室を、作業前および部屋が空になった後、清掃消毒しなければなりません。卵が数日種鶏場に留まる場合は、定期的に適切な消毒薬の噴霧散霧が有効です。

## ●孵化用卵の輸送

集卵のため孵化場から車両を出す前に、輸送装置の内部も外部も洗浄消毒します。種鶏場到着時には、車両の運転者は車が種鶏場に入るのに必要な衛生規則を確認しなければなりません。車両が数か所の種鶏場へ行く場合は特に重要です。可能ならば種鶏場外の周辺地域で卵を受け取り、出来るだけ車両を種鶏場内へ入れないことが重要です。

## 孵化場のバイオセキュリティ

孵化場内のバイオセキュリティに必要な基準を維持するには、非常によく訓練された従業員とすぐれた管理が必須です。孵化場では、作業場を明確にし、それぞれの作業場に専用の従業員を置くのが理想です。基本的には、孵化場の作業場は“清浄”区域と“汚染”区域に分けます。“清浄”区域は、種卵受け取りから孵卵機セットまで、“汚染”区域は孵化から輸送までです。

従業員も作業場ごとに分け、別の色の作業衣を着用させます。各エリアの洗浄消毒は、方法も頻度も異なります。日ごと、週ごと、月ごとの作業を決めます。

必要な作業頻度、遵守する方法は、表にして従業員に配っておきます。

消毒薬の適正な希釈、使用法も明確にしておくべきです。従業員は薬剤を混ぜたり希釈したりする時は防護服ですっぽり被い、顔にバイザーを付け手袋をすべきです。

すべての薬剤の取扱い説明書を、すぐ参照できるようにしておきましょう。

孵化場の特別な区域を除いて、一般的な衛生や作業場の安全への注意を払うことが必要です。孵化場で働いている従業員は全員、仕事を始める時に適切な防護服に着替える必要があります。適切な更衣と洗浄が行いましょう。従業員は作業前、休憩後および他の作業の後には手洗いをすべきです。

作業場のセキュリティについて、記帳、防護服の着衣、手洗い無しで訪問者を受け入れないことが必要です。タイヤ、車の消毒も確実にしましょう。

踏み込み槽は、孵化場の入り口及び必要な場所に設置します。踏み込み槽は洗浄し、新しい消毒液を入れ各場所に設置します。少なくとも週に二回は消毒液を換えます。踏み込み槽での消毒手順は各踏み込み槽の近くに明記します。

## ひなの輸送

ひなの輸送車は孵化場の延長で、洗浄消毒を行います。農場への配送から戻る時は、孵化場から距離のある、しかるべき場所で輸送車の内部、外部を洗浄消毒します。これは次の輸送への準備でもあります。

## まとめ

上記の複雑な方法に隙間が存在すると、このバイオセキュリティシステムは崩壊します。キーポイントは、全体を通して理解すること、種鶏場と孵化場を分けて考えないということです。成功のポイントは従業員への十分な一貫した訓練であり、手順を正確に実行するために必要な場所全てに手順書が置かれていることです。これに加え、全てのプログラムが適切に行われているかの効果的なモニタリングを行うことでこの目的は達成できます。

鶏の品質に影響を与える前に、通常から孵化場自体の環境や建物などの資材の表面汚染をチェックしバイオセキュリティシステムの崩壊を防ぐことが、極めて重要です。